平成２５年度・自主研究会等の活動報告書

|  |  |
| --- | --- |
| 研究会等の名称 | ６次産業化研究会 |
| 代表者 | 首藤　毅 |
| 参加者 | 岩崎美紀、雪野佐喜子、二宮基陽、堤泰秀、池田至郎、甲斐幸丈、  後藤智史、小野隆徳 |
| 研究会等活動の目的 | ６次産業化の現状と課題を先行研究や実践者等から学び、診断士としての支援のあり方を研究する。  　具体的なノウハウ習得のために、６次産業化の取り組むにつながる案件の発掘や、新商品開発、販路拡大のアドバイス等の支援実績をつくる。 |
| 活動の記録 | ６月１５日　６次産業化の現状報告と研究の進め方について  ７月２０日　農商工連携サポートセンターの取り組みについて  ８月１７日　６次産業化ファンドの概要  １０月１９日、１１月３０日　農業支援者のあり方について協議 |
| 研究会（調査研究事業）の成果 | * ６次産業化に関する日本政策金融公庫等の先行研究を参考にして、全国の６次産業化の現状と課題を把握した。 * 大分県産業創造機構のサポートセンターとしての役割や６次産業化ファンドとして設立された「おおいた農林漁業事業化支援ファンド投資事業有限責任組合」の取り組みについて理解した。 * ６次産業化の具体的な取組みとして、安心院の高齢者農家が有機栽培したブドウを地元のワイン工房に委託してオーガニックワインとして製造し、ワイン頒布会という形で販売するまでの取り組みを農商工連携サポートセンターのメンバーから説明を聞き、商品開発や販路確保の重要性および困難さを痛感した。 * ６次産業化の支援者の心構えと手法について整理した。①支援者のスタンスとしては「個々の経営体の農業ビジネス化を図る」と「個々の成功例を連携させることで地域活性化を図る」の両方がある。②中小企業診断士単独による支援よりも、生産・加工技術やプロモーション、販路開拓、経営管理などそれぞれの専門家同士の連携をもとに支援を行う方が効果的である。 |
| 研究会（調査研究事業）の課題 | * ６次産業化の成功要因を掴むために、実際の現場を視察する。 * ６次産業化の新商品開発や販路開拓などの支援事例をつくり、具体的な支援ノウハウを習得する。 |
| 中小企業経営者へのメセージ | * ６次産業化の取り組みの７０％ほどは農林水産物の加工事業と直売事業の組合せであり、加工ビジネスは着手しやすいが競争が激化しています。これから中小企業が６次産業化の事業を取り組む場合は、農林水産業＋４K（環境、健康、教育、観光）の着眼点で事業化を検討することをお奨めします。 |